

採集記録

春の越智山植物採集記

前号で新雅種エチゼンザクラが越智山に産することを報告致しましたが、之は葉に依る標本で同定したもので、是非その花が欲しいため、4月11日に添。寒蟬の両名は越智山へ出かけた。奉勧が早過ぎたため、求める花は開いていなかったが、この機会に見だした春の植物について報告する。春の採集記はあまり書かれていないので参考になれば幸いである。この山は所謂夏緑林で、上層をねすハウチワカエデ、イタヤカエデ、ウリカエデ、ミズナラ、クヌギ、マルバマンサク、タムシバ、クロモジ、コシアブラ、ツノハシバミ等の落葉木葉樹はまだ葉を出して居らず、僅かにソヨゴ、エキツバキ、エゾエスリハ、ヒメアオキ等の常緑樹の葉が目立つだけである。しかしその間にも、山の中腹から山頂にかけて東方からは残雪と見まちがえる程に、白いタムシバの花が咲いている。この外に木本の花は美麗な紅色をねすツバキや、目立たないが黄色の房をねすキンシが見られる。

ツバキについては海岸に産するヤツバキと東北及び北陸の山地に産するユキツバキがあり、ユキツバキの角限は恐らく本県にあるだろうと昨年北村先生が構成されたので、時に注意して観察した。こゝに産するものはヤツバキらしいもの、ユキツバキらしいもの、この两者の中間型らしいものが見られ、この三者の間ににはつきりした区別が無さそうである。筒界村玄野附近、小舟渡附近で見たものにもこの三者がおり、海岸の雄島のものにもヤツバキにまじって中間型が見られる。次が草本であるが、平地に亘る陰濕地にはイチリンソウやニリンソウが可憐な白い花をつけており、キクザキイテゲや、アスママイテゲも見られる。谷川にはワサビやヒロハコンロンソウが小さい白い花を咲いている。道の両側の陽地にはツボスミレ、タチツボスミレ、オオタチツボスミレ、スミレサイシン等のスミレ類が満開であり、ミヤマキケマンの黄色の花が目立つ、イワハタザオ、シャニンシンも白い花をつけている。中腹以上にはショウジョウバカマ、イワカガミ、イワウチワが美しい花をのぞかせている。ツツジの類はサイゴクミツバツツジのみが橙色の花をつけ、地蔵様の供花として道行く人の目につく、人里近くに栽培してあるミツマタが枯木の株が枝に球状の花をつけているのも印象的である。

[附] エチゼンザクラについてはその後、据先生が両中をぬれぬづみになつて登られ立派な標本を作られた由である。

経歴植物採集記